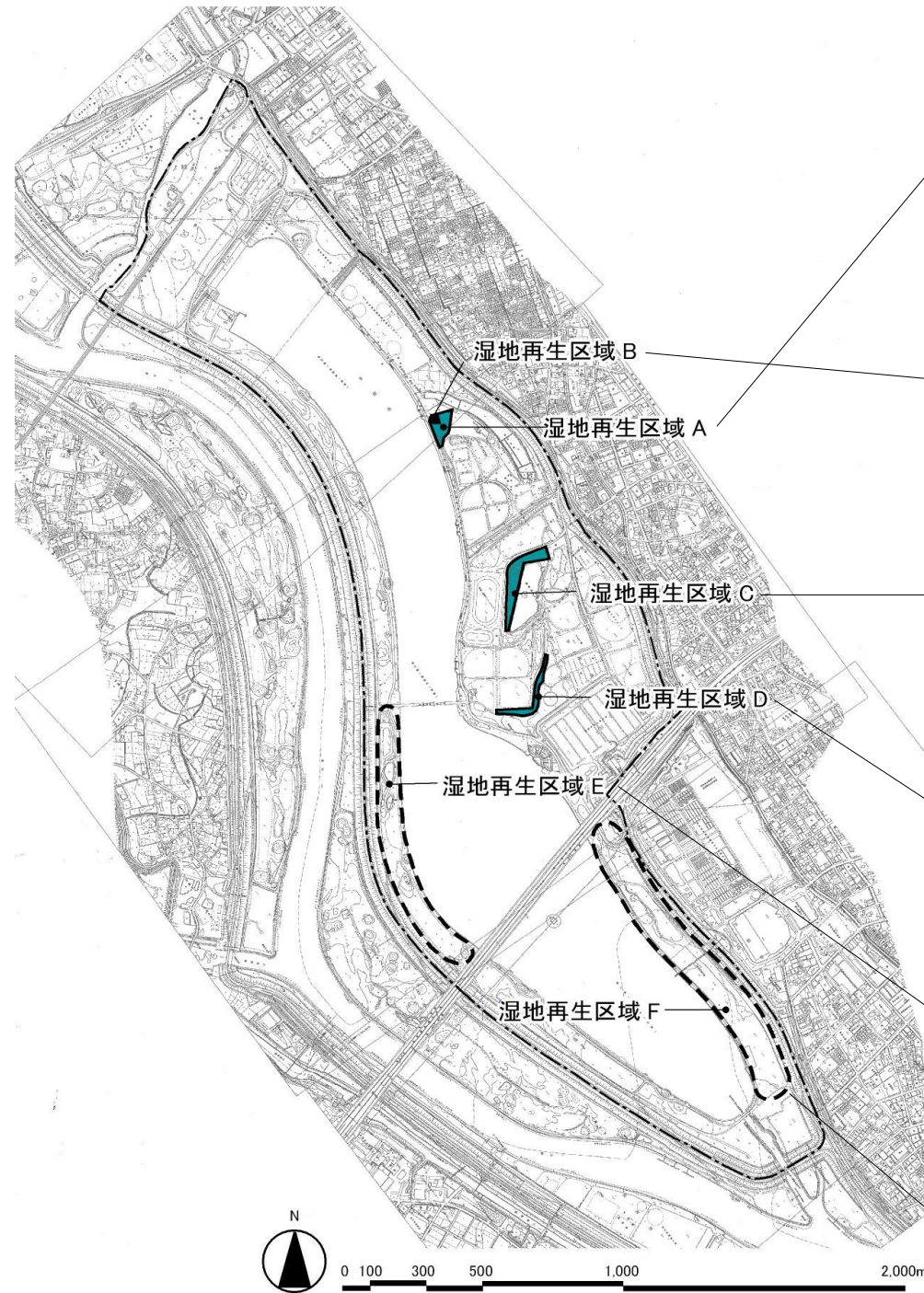


## 2-4. 湿地再生地区とコンセプト

湿地再生地区は、彩湖周辺区域の中において比較的湿性環境が安定的だと考えられる旧流路の直近を中心に現況の土地利用状況を勘案して、以下の6箇所を選定した。

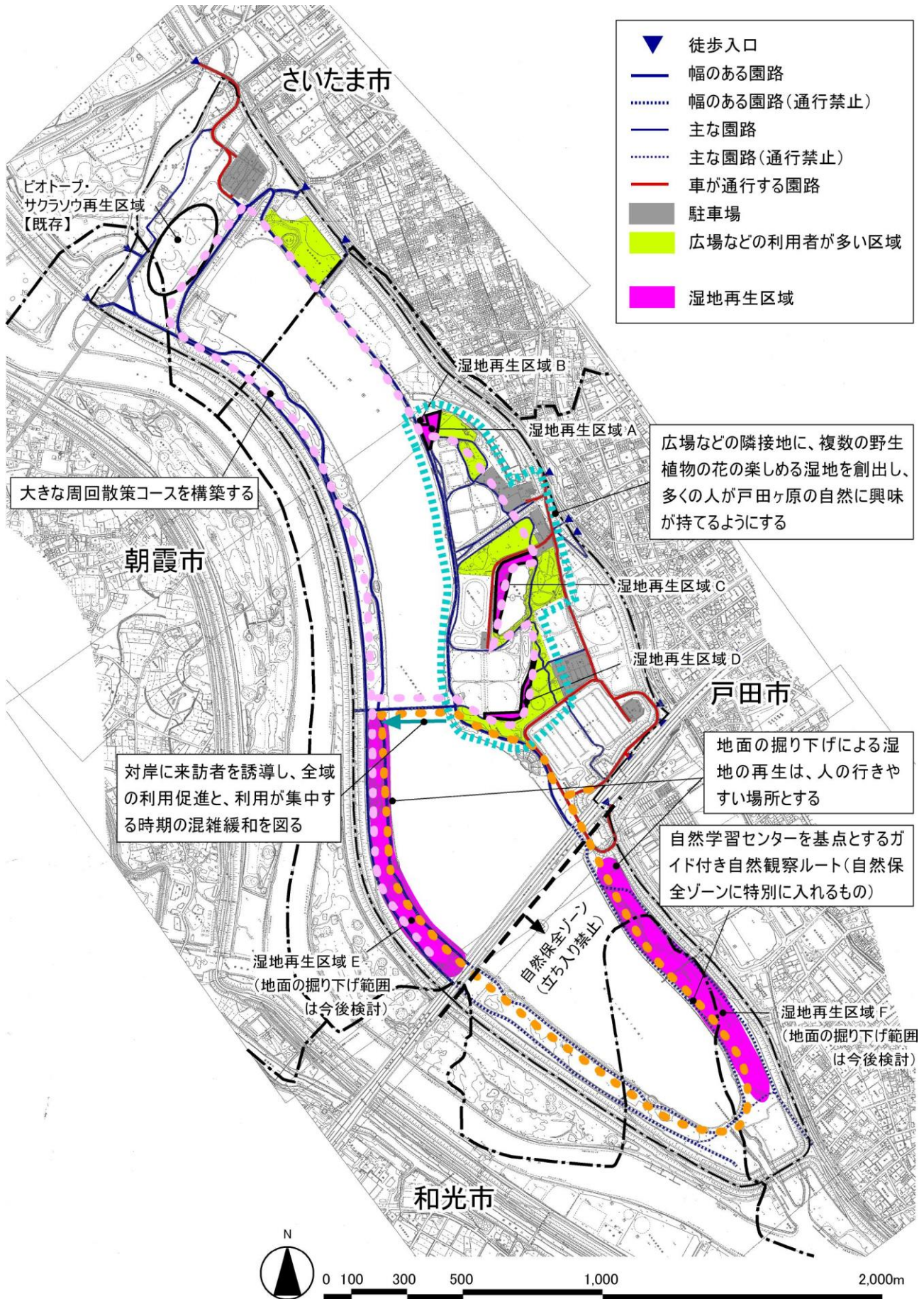
選定した湿地再生地区の概要を下表に示す。

サクラソウなどの野生の草花が彩る湿地の再生計画地



湿地再生地区		選定理由
A	約5,700㎡ (釣り堀近くのオギ原)	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川の旧河道跡に近く、地下水位の変動が緩やかであることが予想され、湿性植物の生育環境を創出しやすいと考えられる。</li> <li>現在は公園としての積極的な土地利用が為されておらず、ほぼ全面にオギ群落が成立している。</li> </ul>
B	約540㎡ (トダスゲ移植地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>トダスゲを生育させるための湿地として整備されており、新たな掘削の必要性がない。</li> <li>トダスゲは極めて僅かしか残存しておらず、日当たりを良くするなど環境改善が望まれている。</li> </ul>
C	約14,000㎡ (観賞池脇の草地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川の旧河道跡に近く、地下水位の変動が緩やかであることが予想され、湿性植物の生育環境を創出しやすいと考えられる。</li> <li>彩湖・道満グリーンパークの中央に位置し、公園利用者も多く集まる場所であり、事業のアピール効果が期待できる。</li> </ul>
D	約7,800㎡ (浄化施設北側の芝生広場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川の旧河道跡に近く、地下水位の変動が緩やかであることが予想され、湿性植物の生育環境を創出しやすいと考えられる。</li> <li>南駐車場からのアクセスがよく、来訪者への事業のアピール効果が期待できる。</li> </ul>
E	約82,000㎡ (彩湖右岸側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川のかつての氾濫原にあたり、本来的な環境再生となる。</li> <li>荒川第一調節池の野外活動ゾーン(自然指向型)に位置づけられ、自然環境の保全と活用を図る区域である。</li> <li>彩湖自然学習センターからのアクセス圏内にあり、連携することにより環境学習の活用も可能である。</li> </ul>
F	約135,000㎡ (自然保全ゾーン左岸側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川の旧河道跡に近く、地下水位の変動が緩やかであることが予想され、湿性植物の生育環境を創出しやすいと考えられる。</li> <li>荒川第一調節池の自然保全ゾーンであり、荒川の植生や水辺の自然環境の保全・再生を図る場としての位置づけがある。</li> <li>荒川のかつての氾濫原にあたり、本来的な環境再生となる。</li> <li>彩湖自然学習センターからもほど近く、連携することにより環境学習の活用も可能である。</li> </ul>





湿地の利活用の方針